

November 15, 2021

【前日の為替概況】11月米消費者態度指数悪化でドル安、対円 113.76 円、対ユーロ 1.1462 ドル

12日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反落。終値は113.89円と前営業日NY終値(114.06円)と比べて17銭程度のドル安水準。アジア時間に114.30円まで上昇した反動で、海外市場ではポジション調整目的の売りが目立った。11月米消費者態度指数(ミシガン大調べ)速報値が66.8と予想の72.4を下回り、約10年ぶりの低水準を付けたことが分かると売りが加速し、一時113.76円と日通し安値を更新した。1.53%台まで低下した米10年債利回りが上昇に転じ、1.58%台に乗せたことを受けてドル円にも買い戻しが入ったが、節目の114.00円には届かず、その後も戻りの鈍い展開が続いた。

ユーロドルは小幅ながら3日続落。終値は1.1445ドルと前営業日NY終値(1.1451ドル)と比べて0.0006ドル程度のユーロ安水準だった。今週発表の10月米消費者物価指数(CPI)が予想を上回り、米連邦準備理事会(FRB)による利上げ前倒し観測が強まったことなどが引き続きユーロ売り・ドル買いを促し、1.1433ドルと昨年7月以来の安値を付けた。その後、低調な米経済指標を受けてユーロ買い・ドル売りが優勢となり、1.1462ドルと日通し高値を付ける場面もあったが、ユーロ豪ドルなどユーロクロスが下落した影響で戻りは限定的だった。結局、NY午後に入ると1.14ドル台半ばでの狭いレンジ取引に終始した。

なお、ユーロ豪ドルは一時1.5601豪ドル、ユーロNZドルは1.6239NZドル、ユーロポンドは0.8526ポンド、ユーロカナダドルは1.4352カナダドル、ユーロスイスフランは1.0536スイスフランまで下落した。「欧州では新型コロナウイルス感染が再拡大しており、ユーロの重しとなっているのではないか」との声が聞かれた。

ユーロ円は4日続落。終値は130.33円と前営業日NY終値(130.61円)と比べて28銭程度のユーロ安水準。低調な米経済指標を受けたドル円の下落や、ユーロ全面安となった流れを受けて一時130.24円と10月11日以来約1カ月ぶりの安値を付けた。

代表的な暗号資産(仮想通貨)であるビットコインは一時売りが強まった。対ドルでは一時6万2311ドル付近まで下落したほか、対円では710万円台まで値を下げた。米証券取引委員会(SEC)が米資産運用会社ヴァンエック(VanEck)のビットコイン上場信託(ETF)の上場申請を却下したことなどが嫌気されたようだ。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米国の対日関税撤廃の可能性で上値が重い展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、米国の対日関税撤廃の可能性で上値が重い展開が予想される。

本日、レモンド米商務長官が訪日し、日本の当局者らと鉄鋼問題について協議する予定となっている。バイデン米政権は、トランプ前政権が安全保障上の理由で欧州連合(EU)からの鉄鋼とアルミニウム輸入に追加関税を賦課し、EU側が報復措置を講じていた通商紛争を停止することで合意している。レモンド米商務長官は、日本との間で「合理的かつ早急なタイミングで」鉄鋼・アルミニウム関税を巡る交渉を開始する、と述べており、日本からの鉄鋼とアルミニウム輸入の関税措置が撤廃される可能性が高まっている。輸入関税が撤廃された場合、日本からの対米輸出が増えることが予想されるため、ドル円の上値を抑える要因となる。

本日8時50分に発表される日本の第3四半期実質国内総生産(GDP)速報値は、新型コロナウイルスの感染急拡大で個人消費が大きく落ち込み、供給制約による自動車の減産で輸出が鈍化したことも影響で、2四半期ぶりのマイナス成長に落ち込んだと予想されている。市場の予想は前期比▲0.2%、前期比年率▲0.7%と見込まれている。原油価格上昇と景気減速でスタグフレーションへの警戒感が高まるものの、第4四半期はコロナ感染者数が大幅に減少していることで、プラス成長に戻るとの見方が強まっている。

11時に発表される10月中国鉱工業生産の予想は前年比+3.0%で、9月の前年比+3.1%から低下、10月中国小売売上高の予想は前年比+3.7%で9月の前年比+4.4%からの低下が見込まれている。日本と同様に、インフレ高進と景気減速によるスタグフレーション懸念に要警戒となる。

ユーロ売り・ドル買い要因となる地政学リスクとしては、ロシアによるウクライナ侵攻の可能性、ポーランドとベラルーシの軍事衝突の可能性などに要警戒となる。

ドル円のオーダー状況は、上値には、114.00円にドル売りオーダー、114.30円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、16日のNYカットオプションが控えている。下値には、113.70円、113.50円、113.40円、113.00円にドル買いオーダーが控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ☆ 7-9 月期実質国内総生産 (GDP) 速報値 (予想: 前期比▲0.2%/前期比年率▲0.7%)
- 10:00 ◎ 黒田日銀総裁、あいさつ
- 13:30 ◇ 9 月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 9 月設備稼働率

<海外>

- 11:00 ◎ 10 月中国鉱工業生産 (予想: 前年比 3.0%)
- 11:00 ◎ 10 月中国小売売上高 (予想: 前年比 3.7%)
- 17:30 ◎ 10 月スウェーデン消費者物価指数 (CPI、予想: 前月比横ばい/前年比 2.7%)
コア指数 (予想: 前月比横ばい/前年比 3.0%)
- 18:30 ◎ ハスケル英中銀金融政策委員会 (MPC) 委員、講演
- 19:00 ◇ 9 月ユーロ圏貿易収支 (予想: 季節調整前なし/季節調整済 115 億ユーロの黒字)
- 19:00 ◎ ラガルド欧州中央銀行 (ECB) 総裁、欧州議会に参加
- 22:30 ◇ 9 月カナダ製造業出荷 (予想: 前月比▲3.1%)
- 22:30 ◇ 9 月カナダ卸売上高 (予想: 前月比 1.1%)
- 22:30 ◎ 11 月米ニューヨーク連銀製造業景気指数 (予想: 22.0)
- 23:30 ◎ ベイリー英中銀 (BOE) 総裁、マン英中銀金融政策委員会 (MPC) 委員、ピル英中銀 MPC 委員、サンダース英 MPC 委員、議会証言
- 16 日 00:45 ◎ デギンドス ECB 副総裁、講演
- 米中首脳会談 (オンライン形式)
- ブラジル (共和制宣言記念日)、メキシコ (革命記念日)、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

12日 06:59 ディアスデレオン・メキシコ中銀総裁
「CPIは高いが、制御不能というわけでは決していない」
「第3四半期の経済縮小以降、回復トレンドを継続」

12日 16:40 レーン・フィンランド銀行(中央銀行)総裁
「供給のボトルネックは、2022年後半まで解消しない可能性」

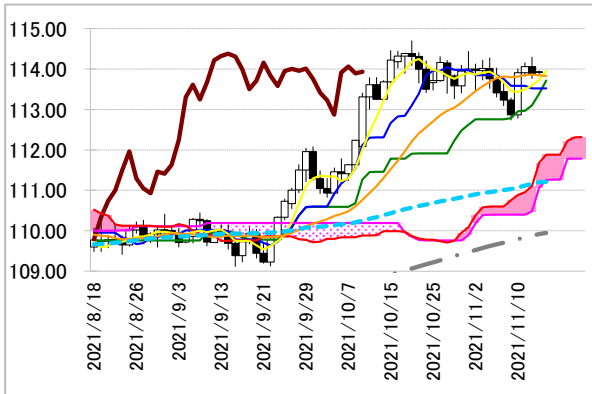
13日 00:27 フロスト英・欧州連合(EU)担当交渉官
「英国とEUの間にある大きな溝を埋める必要がある」
「来週、特に関税と医薬品についての協議を進めたい」

13日 00:40 シェフコビッチ欧州委員会副委員長
「北アイルランド議定書に含まれるあらゆる問題を検討する必要」
「英国と医療分野での合意に向けたハードルは低い」
「ECJ(欧州司法裁判所)に持ち込まれた場合、非常に重要なことはECJが単一市場ルールの守護者であるということ」

13日 02:05 ホワイトハウス
「バイデン米大統領と習近平中国国家主席のオンライン会談を15日に実施」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

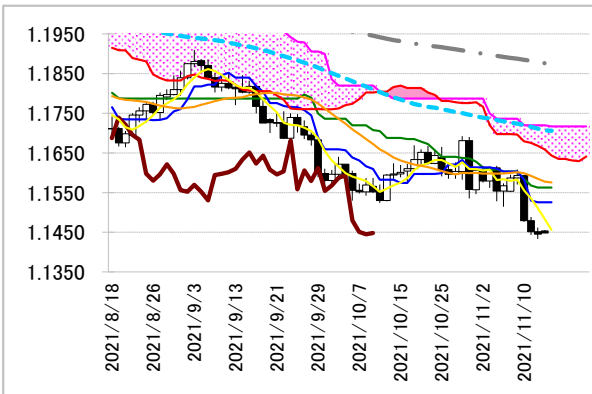


<ドル円=10/28 安値を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。抱き線で反落したものの、転換線を上回って引けており反発の可能性が示唆されている。

本日は、10月28日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	115.51 (2017/3/10 高値)
レジスタンス 1	114.70 (10/20 高値=年初来高値)
前日終値	113.89
サポート 1	113.26 (10/28 安値)
サポート 2	112.73 (11/9 安値)

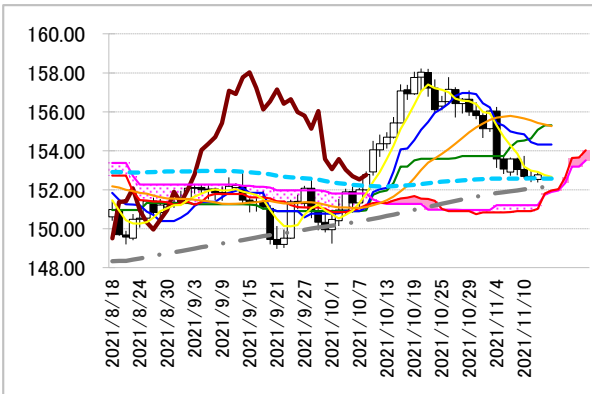


<ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線は下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。3手連続陰線で下落し、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1525 (日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1445
サポート 1	1.1371 (2020/7/16)

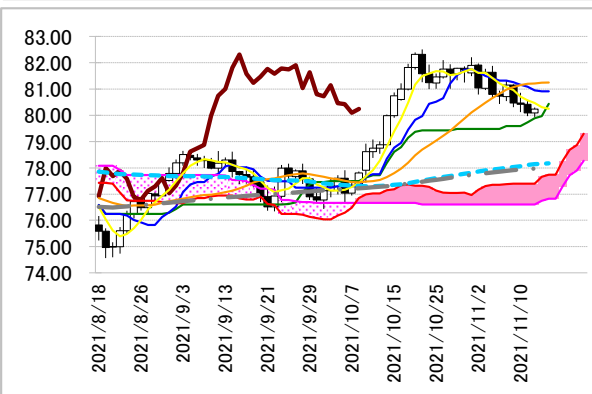


<ポンド円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開。抱き線で反発したものの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	154.32 (日足一目均衡表・転換線)
前日終値	152.77
サポート 1	151.80 (日足一目均衡表・雲の上限)



<NZドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。しかしながら、孕み線で反発しているものの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	80.91 (日足一目均衡表・転換線)
前日終値	80.24
サポート 1	78.79 (10/14 安値)

